

04/30 | 05/01

映画監督 三隅研次特集

2016年04月30日(土)・05月01日(日)

「座頭市」や「眠狂四郎」シリーズなどで知られる映画監督・三隅研次(1921-1975)は、時代劇に大胆な表現を導入し、極限的な状況における愛と死を描き続けることによって戦後の日本映画に新風を送りこんだ。その研ぎ澄まされた画面設計やスピーディーな語り口は、衰退を見せ始めた撮影所体制下において時代劇の新たな可能性を示し、現在もなお新鮮な驚きを我々に与え続けている。今回は、NFCで好評を博した上映企画の中から、三隅の劇映画の代表作と、テレビドラマ「必殺」シリーズを紹介する。

04月30日(土) 14:00-15:39

婦系図 [ニュープリント]

99分 | 35mm | カラー

1962(大映京都) 監 | 三隅研次 原 | 泉鏡花
脚 | 依田義賢 補 | 武田千吉郎 美 | 内藤昭 音 | 伊福部昭
出 | 市川雷蔵、万里昌代、船越英二、三條雅也、水戸光子、木暮実千代、千田是也、片山明彦、伊達三郎、石黒達也、藤原礼子、近江輝子



婦系図

身分違いの恋を綴った「婦系図」の5度目の映画化。「グラマー女優」として活躍していた万里昌代は、本作のお篤役の好演によって新派/時代劇女優としての賞賛を開花させた。また本作は三隅が依田義賢と初めて組んだ作品でもあり、2人は以後も女性映画の名作を生み出していく。



桜の代紋

04月30日(土) 16:00-17:29

桜の代紋 [ニュープリント]

89分 | 35mm | カラー

1973(徳プロ) 監 | 三隅研次 原・出 | 若山富三郎
脚 | 石松愛弘 補 | 森田富士郎 美 | 下石坂成典 音 | 村井邦彦
出 | 松尾嘉代、関口宏、渡辺文雄、大滝秀治、小林昭二、大木実、石橋蓮司、真山知子、東三千



必殺仕掛人 秋風二人旅

関西一の暴力団の犯罪をベテラン刑事(若山)が追及するが、関係者は次々と消され、家族にも魔手が伸びる…。大阪の街を鋭利に切り撮った森田富士郎ら元大映京都のスタッフと、若山富三郎の持ち味と勝プロの自由度を存分に活かした実験的な映像表現に満ちた、三隅後年の代表作。

05月01日(日) 14:00-15:34

必殺仕掛人 地獄花 [ニュープリント]

47分 | 16mm | カラー

1973(松竹=朝日放送) 監 | 三隅研次 原 | 池波正太郎
脚 | 安倍徹郎 補 | 石原興 美 | 川村鬼世志 音 | 平尾昌晃
出 | 緒形拳、田村高廣、金井由美、山村聡、津坂匡章、浮田左武郎、外山高士、波田久夫、木下サヨ子、太田優子
解 | 睦五郎

シリーズ第21話。O・ヘンリーの「賢者の贈り物」を下敷きに、貧窮にあえぐ浪人・神谷兵十郎(田村)と妻(金井)のすれ違いを残酷に描く。池波正太郎に師事した安倍徹郎は、「必殺」シリーズをはじめ、池波作品の代表的脚本家として知られる。

必殺仕掛人 秋風二人旅 [ニュープリント]

47分 | 16mm | カラー

1972(松竹=朝日放送) 監 | 三隅研次 原 | 池波正太郎
脚 | 安倍徹郎 補 | 石原興 美 | 川村鬼世志 音 | 平尾昌晃
出 | 緒形拳、天知茂、小林昭二、林与一、原健策、北真知史朗、市川小金吾、伴勇太郎、西崎健、沢田トモ、芦沢孝子
解 | 睦五郎

シリーズ第12話。上方での仕事を受けた梅安は彦造(小林)と京に向かうが、旅の侍(天知)を見た彦造は妻子の仇と血相を変え、討とうとする。天知茂が対照的な兄弟の2役をさすのが貫録で演じ分けている。



必殺仕掛人

05月01日(日) 15:40-16:30

しげる 石原興氏アフタートーク

(聞き手 | 畠田美香 フィルムセンター主任研究員)

上映後「必殺」シリーズにカメラマンとして関わった石原興監督に当時のお話を伺います。



石原興氏



MoMAK

FILMS

07/15 | 07/16

キューバ映画ポスター展特集

2016年07月15日(金)・16日(土)

キューバは1959年の革命以降、国立の映画芸術産業庁(ICAIC)を拠点に次々と先鋭的な映画を送り出してきた「小さな映画大国」。今回は展覧会「キューバの映画ポスター」の開催に合わせて、1960-70年代の重要作から4作品をピックアップ。

同日開催
「キューバの映画ポスター」展関連
クラブイベント サルサナイト@MoMAK

DJ ロドリゴ西
日時 | 7月16日(土) 18:00-21:00
会場 | 京都国立近代美術館
1階エントランスホール
主催 | 京都国立近代美術館、NPO法人
日本ラテン文化振興協会
入場料金 | 1,000円(当日券のみ)

夜間上映
15日(金) 18:00-20:40

ルシア LUCIA

160分 | 35mm | 白黒

1968(ICAIC) 監・脚 | ウンベルト・ソラス 脚 | フリオ・ガルシア・エスピノーサ、ネルソン・ロドリゲス 補 | ホルヘ・エレラ 美 | ベドロ・ガルシア・エスピノーサ 音 | レオ・ブローウエル
出 | ラケル・レプエルタ、エスリンダ・ヌニェス、アデーラ・レグラ、エドゥアルド・モウレ、ラモン・プリトほか

スペイン植民地だった1895年、アメリカ支配が強まる1932年、そして革命の1960年代という三つの時代を生きた三人の“ルシア”を通して、キューバ女性の愛と自立を謳ったオムニバス巨篇。26歳のソラスによる時に荒々しく時にロマンティックな演出が鮮烈。*ポスター展 出品作品

16日(土) 14:00-15:37

はじめて映画を見た日 POR PRIMERA VEZ

10分 | 35mm | 白黒

1967(ICAIC) 監・脚 | オクタビオ・コルタサル 補 | ホセ・ロベス 音 | ラウル・ゴメス

東部山岳地方を訪れた巡回映写班を追った記録で、チャップリンに見入る人々の表情が印象的。テレビ出身で、プラハで学んだコルタサルの帰国第1回作品。

*上映作品はすべて日本語字幕

16日(土) 14:00-15:37

レボルシオン 革命の物語 HISTORIAS DE LA REVOLUCIÓN

87分 | 35mm | 白黒

1960(ICAIC) 監・脚 | トマス・グティエレス・アレア 脚 | ホセ・エルナンデス、ウンベルト・アレナル 補 | オテロ・マルテッリ、セルヒオ・ベバル 音 | カルロス・フアリーニャス、レオ・ブローウエルほか
出 | エドゥアルド・モウレ、リアン・ジェレーナほか

革命軍の戦闘を「負傷者」「反乱者たち」「サンタ・クララの戦い」の三挿話にまとめた硬質のセミ・ドキュメントで、新政権誕生後初の長篇。ローマの映画実験センターでネオレアリズモ映画に学んだアレアたちは『戦火のかなた』の名撮影監督マルテッリを招いた(第1・2話)。

16日(土) 15:50-17:42

天国の晩餐 LOS SOBREVIVIENTES

112分 | 35mm | カラー

1978(ICAIC) 監・脚 | トマス・グティエレス・アレア 脚 | アントニオ・ベニテス・ロホ、コンスタンテ・ディエゴ、マリア・エウヘニア・アヤ 補 | マリオ・ガルシア・ホヤほか 美 | ホセ・M・ビラ 音 | レオ・ブローウエル
出 | エンリケ・サンティエス・テバン、アナ・ビーニャほか

革命期にキューバに留まった歴史あるオロスコー族。闇物資を手にし、アメリカの侵攻事件にも喜ぶ当主だが、革命政権は倒れない。一家の生活は苦しくなり、召使やお抱えの農民も逃げてゆく。世の中から隔絶した豪邸を舞台に、ブニュエル作品を思わせるブラックな感覚に満ちた作品。



「ルシア」ポスター

NFC所蔵作品選集

MoMAK

2016.04—07



NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS

2016.04—07

NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS

information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃 (開場は13:30)

*7月15日(金)のみ18:00-上映

上映作品は予告なく変更する場合があります。

上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。

www.momak.go.jp/films/

料金 | 1プログラム 520円 (当日券のみ)

*本券でコレクション展もご覧いただけます。

会場 | 京都国立近代美術館 1階講堂

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。

当日13:30(7月15日のみ17:30)より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)

東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



企画協力 | 北小路隆志 (映画評論家 / 京都造形芸術大学准教授)

板倉史明 (神戸大学大学院准教授)

Exhibition

同時開催中の展覧会

オーダーメイド:それぞれの展覧会

会期 | 2016年4月2日(土) - 5月22日(日)

キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより

会期 | 2016年6月1日(水) - 7月24日(日)

ポール・スミス展

HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH

会期 | 2016年6月4日(土) - 7月18日(月・祝)



必殺仕掛人

2016 04 April
07 July

access

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL | 075 761 4111

www.momak.go.jp



・JR・近鉄京都駅前(A1のりば)からバス5番 岩倉行

「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

・JR・近鉄京都駅前(D1のりば)からバス100番(急行)銀閣寺行

「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅からバス5番 岩倉行

「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅からバス46番 平安神宮行

「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

・バス他系統「東山二条・岡崎公園口」または

「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分

・地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MoMAK F Column

いち, への, 「第三映画」

キューバ映画と言われても、日本では馴染みのない方が大半でしょう。1972年に日本初の「キューバ映画祭」が行われ、1980年代後半には劇場公開も実現しましたが、上映の機会は決して多くありません。ただ、過去のフィルムが配給会社の好意でフィルムセンターに寄贈されたおかげで、いくつかの代表作は今でも日本で観られます。

キューバ映画の特質を理解するには、一本の補助線を引いてみるのが有効でしょう。それは「第三映画」という概念です。1960年代後半にアルゼンチンの監督フェルナンド・ソラナスらによって提唱された語で、以降のラテンアメリカ映画の一傾向を象徴するものとなりました。「第三」と言うからには第一と第二の映画があるわけですが、第一というのは煎じ詰めればアメリカ映画です。つまり、娯楽性の追求を通じて世界市場を制覇した一大映画産業を示します。そして第二は、映画を芸術作品と見なしてその価値を高めようとするヨーロッパ映画です。これら二つの理念形を乗り越えて、帝国主義に抵抗し、世界を変革するための直接行動的な映画として模索されたのが「第三映画」です。この理念は、のちにブラジルやチ

リ、アルゼンチンなどで軍事政権が生まれ、自由な映画作りが阻まれた事実を考えると説得力あるマニフェストだったと言えます。

すでに革命を成功させたキューバの映画界は、当然ながらこのマニフェストに近い位置に立っていました。しかしキューバの映画状況は、この言葉だけで説明するにはあまりにも豊かすぎます。まず、革命前は経済的にアメリカの操り人形だったこの国では、圧倒的な数のアメリカ映画が注ぎ込まれていました。その時代の映画館の雰囲気は、亡命した作家ギレルモ・カブレラ・インファンテが「亡き王子のためのハバーナ」という小説の中で懐古的に描いています。鋭い映画評論も書いた彼は、アメリカ映画を愛しすぎて、アメリカと断交した革命キューバに耐えられず去ったといっても過言ではありません。

そして、1950年代のハバナの知的な学生たちはアメリカ映画に飽き足らず、ヨーロッパの映画芸術に触れようと上映組織を結成し、その真摯さはパリからフィルムを取り寄せるほどでした。若者の中には、後の巨匠監督トマス・グティエレス・アレアのようにイタリアの国立映画実験センターに留学する者まで現れます。つまり革命後のハバナは「映画の境界から新しい映画を興す」どころか、第一の映画も第二の映画も知り尽くした上で「第三映画」革命も担ってしまうという贅沢極まりない都市になっていたのです。

実際に作られたアレアの作品を観ると、その映画の教養の深さに驚かされます。『天国の晩餐』などはスペイン語圏映画の大先輩ルイス・ブニエルのブラックな作風をさらに黒く塗りたくり、また『ある官僚の死』という映画では、冒頭でブニエルやら黒澤明やら世界の名監督への謝辞が捧げられています。ウンベルト・ソラスの『ルシア』も、その荒削りな演出と作曲家レオ・ブローウェルのエレガントな資質の見事なマッチングに注目せざるを得ません。これはもう、独自のワイルドさを加えた「第二映画」そのものです。

革命キューバの「第三映画」性は、むしろドキュメンタリーやニュース映画に求めるべきでしょう。映画作りの経験のないサンチャゴ・アルバレスがこの部門の責任者となり、天才的な編集能力で、その瞬間の政治情勢や社会問題を瞬時に作品化しました。その「緊急映画」の思想と飛び抜けた生産性の高さは、ドキュメンタリー映画の概念を塗り替えるほどの衝撃となります。

映画国家としてのキューバの豊穡さを、私たちはまだ味わい尽くしたとは言えません。経済難の長引く現在は外国との合作に活路を見出し、これからはアメリカとの映画交流も広がるでしょう。しかし、オリジナリティに満ちたその遺産にこそ、新たに熱い視線を向けるべきでしょう。

岡田秀則 (東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)